



Title	ごあいさつ
Author(s)	千代, 賢治
Citation	癌と人. 1994, 21, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/23897">https://hdl.handle.net/11094/23897</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# ご あ い さ つ

理事長 千 代 賢 治

皆様には益々ご清祥のこととおよろこび申し上げます。

平素は、財団法人「大阪癌研究会」に対し、格別のご支援、ご協力を賜り誠に有難うございます。

さて、平成4年のわが国の平均寿命は男性が76才、女性が82才となり依然としてわが国は世界一の長寿国であります。またわが国の全人口に占める65才以上の高齢者の割合は、現在の13%から今後30年のうちに25%に達し、急速な高齢化が進むことが予想されています。

このような高齢化社会の到来とともに、成人病、特にがんの急増が大きな社会問題になっています。がんの問題点は、社会・家庭で重要な地位にある働き盛りの年齢層から高年齢層にかけての各年齢層（30～79才）において死亡順位が第一位を占めていることです。また、がんは昭和56年以来、死亡順位の第一位を占め続け、昨年一年間にがんで亡くなられた方は約22万人に達しております。

このように現在、がんは国民にとって最も恐るべき疾病の一つであり、その制圧はわが国の緊急を要する国家的課題です。このため政府は昭和58年に「対がん10カ年総合戦略」を策定し、それに基づいて発がん遺伝子などの最先端のがん研究を内外の英知を結集して推進し、その成果を予防・診断・治療に反映させ、がんで苦しむ人々のために役立てようとしています。このような中で現在、私どもにできることは次の3点であろうと思います。まず第一は、がんにかからないようにすること。がんの予防であります。第二は、がんにかかったならば、これをいかに早く発見し、早く治療を行なうか。すなわち早期発見、早期治療であります。第三は、がんが進行してしまってから発見され、がんを切除した後、いかにがんの再発、転移を予防し治療するかです。

わが財団は、多年に亘りがん予防のための知識の普及、早期発見・早期治療のための検診の拡大、そして学術研究の奨励助成に努めて参りました。しかしながら、財団の活動の一部である検診事業の継続が、老人保健法による各自治体のがん検診の実施や大阪大学微研病院の閉院などの情勢変化により、困難な状況となりました。そこで残念ながら、平成6年3月で検診事業を中止せざるを得なくなりました。各自治体、大阪商工会議所そして各事業体の長年に亘るご協力に深く感謝申し上げます次第です。

わが財団としては、今後とも設立目的に沿ってがんに関する知識の普及と学術研究の奨励助成に努力して参ります。がんを制圧し万人の健やかな健康を実現するために、今後とも皆様の力強いご支援とご協力を切にお願い申し上げます。